

【20】平成30年度 大学院シラバス

<p>専攻分野/コース</p> <p>(英文名)</p>	<p>内科学(リウマチ・膠原病・アレルギー内科)</p> <p>(Rheumatology and Allergy)</p>
<p>研究指導教員</p>	<p>川 畑 仁 人</p>
<p>研究・教育の概略</p>	<p>リウマチ性疾患およびアレルギー疾患には、難治性病態が未だに多く、確立されていない治療分野も多い。近年の遺伝子工学、分子生物学、免疫学、炎症再生医学の進歩により、多くの難治性疾患が克服されつつある。その歴史をひも解き、先人達が成し遂げた研究のプロセスを吟味し、どのような方法で新しい知見を発見し、新しい診断法や治療法として確立してきたかを理解することが大切であり、その学習を通じて、リウマチ性疾患およびアレルギー疾患の病因・病態解明とより新しい診断法・治療法を探究していけるような医学者・臨床医を養成したい。</p>
<p>研究項目</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 免疫学の基礎知識の臨床への応用 2. 関節リウマチの病態解明と治療法の開発 3. 膠原病の病態解明と治療法の開発 4. リウマチ性疾患およびアレルギー疾患臨床研究 5. リウマチ性疾患およびアレルギー疾患ケーススタディを通じた病態研究 6. リウマチ性疾患およびアレルギー疾患の新しい EBM の研究
<p>準備学習(予習・復習)</p>	<p>事前に参考資料を読むこと</p>

学籍番号	
氏 名	

平成30年度講義シラバス(1)

講義コード	※	専攻分野	内科学(リウマチ・膠原病・アレルギー内科)	
講義題目	リウマチ性疾患 Up To Date- I		必修/選択	必修
担当教員	山崎 宜興	担当教員連絡先	内線 4288	
単位数	2 単位(前期 1・後期1)	履修年次	1 年	
テーマと目的	日進月歩のリウマチ膠原病疾患に関する新知見を学ぶ			
講義計画	抄読会形式で、最新論文の成績を吟味、評価し、診療への役立て方を学ぶ。			
達成目標	研究の背景、仮説、方法論、結果のまとめ方、結果の評価方法を理解する。 得られた知見を臨床に応用する方法を理解する。			
教科書・参考書	最新論文			
準備学習(予習・復習・時間)	事前に参考資料を読むこと 1 時間			
成績評価法	出席と議論の場における発言内容と受講態度により総合評価する。			
講 義 内 容				
前期(回)	内 容 (出席◎)		後期(回)	内 容 (出席◎)
1	その時点の最新論文をとりあげるため、 内容は一週間前に決まる。		1	その時点の最新論文をとりあげるため、 内容は一週間前に決まる。
2	〃		2	〃
3	〃		3	〃
4	〃		4	〃
5	〃		5	〃
6	〃		6	〃
7	〃		7	〃
8	〃		8	〃
9	〃		9	〃
10	〃		10	〃
11	〃		11	〃
12	〃		12	〃
13	〃		13	〃
14	〃		14	〃
15	評価日		15	評価日

講義担当者承認 ◎

学籍番号	
氏 名	

平成30年度講義シラバス(2)

講義コード	※	専攻分野	内科学(リウマチ・膠原病・アレルギー内科)	
講義題目	リウマチ性疾患 Up To Date-Ⅱ		必修/選択	必修
担当教員	川畑 仁人	担当教員連絡先	内線 4119	
単位数	2 単位(前期 1・後期1)	履修年次	2年	
テーマと目的	日進月歩のリウマチ膠原病疾患に関する新知見を学ぶ			
講義計画	抄読会形式で、最新論文の成績を吟味、評価し、診療への役立て方を学ぶ。			
達成目標	研究の背景、仮説、方法論、結果のまとめ方、結果の評価方法を理解する。 得られた知見を臨床に応用する方法を理解する。			
教科書・参考書	最新論文			
準備学習(予習・復習・時間)	事前に参考資料を読むこと 1 時間			
成績評価法	出席と議論の場における発言内容と受講態度により総合評価する。			
講 義 内 容				
前期(回)	内 容 (出席◎)		後期(回)	内 容 (出席◎)
1	その時点の最新論文をとりあげるため、 内容は一週間前に決まる。		1	その時点の最新論文をとりあげるため、 内容は一週間前に決まる。
2	〃		2	〃
3	〃		3	〃
4	〃		4	〃
5	〃		5	〃
6	〃		6	〃
7	〃		7	〃
8	〃		8	〃
9	〃		9	〃
10	〃		10	〃
11	〃		11	〃
12	〃		12	〃
13	〃		13	〃
14	〃		14	〃
15	評価日		15	評価日

講義担当者承認 ◎

学籍番号	
氏 名	

平成30年度講義シラバス(3)

講義コード	※	専攻分野	内科学(リウマチ・膠原病・アレルギー内科)	
講義題目	リウマチ性疾患ケーススタディ-Ⅰ		必修/選択	必修
担当教員	山崎 宜興	担当教員連絡先	内線 4285	
単位数	2 単位 (前期 1・後期1)	履修年次	1 年	
テーマと目的	症例検討を通じて、リウマチ膠原病の病因・病態を学ぶ			
講義計画	リウマチ膠原病疾患の症例検討会において、疾患の発症機序や病態について議論し、組織破壊・炎症・免疫・再生の理解を深める。			
達成目標	各種リウマチ膠原病疾患の発症機序や病態に関する理解を深める。 生体防御反応である炎症・免疫・再生のメカニズムを理解する。			
教科書・参考書	Robbins and Cotran Pathologic Basis of Disease 7 th Edition			
準備学習(予習・復習・時間)	事前に参考資料を読むこと 1 時間			
成績評価法	出席と議論の場における発言内容と受講態度により総合評価する。			
講 義 内 容				
前期(回)	内 容 (出席◎)		後期(回)	内 容 (出席◎)
1	症例は一週間前に決まる。		1	症例は一週間前に決まる。
2	〃		2	〃
3	〃		3	〃
4	〃		4	〃
5	〃		5	〃
6	〃		6	〃
7	〃		7	〃
8	〃		8	〃
9	〃		9	〃
10	〃		10	〃
11	〃		11	〃
12	〃		12	〃
13	〃		13	〃
14	〃		14	〃
15	評価日		15	評価日

講義担当者承認

◎

学籍番号	
氏 名	

平成30年度講義シラバス(4)

講義コード	※	専攻分野	内科学(リウマチ・膠原病・アレルギー内科)		
講義題目	リウマチ性疾患ケーススタディ-Ⅱ		必修/選択	必修	
担当教員	柴田 朋彦	担当教員連絡先	西部病院 PHS:71477		
単位数	2 単位(前期 1・後期1)	履修年次	2 年		
テーマと目的	症例検討を通じて、リウマチ膠原病の病因・病態を学ぶ				
講義計画	リウマチ膠原病疾患の症例検討会において、疾患の発症機序や病態について議論し、組織破壊・炎症・免疫・再生の理解を深める。				
達成目標	各種リウマチ膠原病疾患の発症機序や病態に関する理解を深める。 生体防御反応である炎症・免疫・再生のメカニズムを理解する。				
教科書・参考書	Robbins and Cotran Pathologic Basis of Disease 7 th Edition				
準備学習(予習・復習・時間)	事前に参考資料を読むこと 1 時間				
成績評価法	出席と議論の場における発言内容と受講態度により総合評価する。				
講 義 内 容					
前期(回)	内 容 (出席◎)		後期(回)	内 容 (出席◎)	
1	症例は一週間前に決まる。		1	症例は一週間前に決まる。	
2	〃		2	〃	
3	〃		3	〃	
4	〃		4	〃	
5	〃		5	〃	
6	〃		6	〃	
7	〃		7	〃	
8	〃		8	〃	
9	〃		9	〃	
10	〃		10	〃	
11	〃		11	〃	
12	〃		12	〃	
13	〃		13	〃	
14	〃		14	〃	
15	評価日		15	評価日	

講義担当者承認

◎

学籍番号	
氏 名	

平成30年度講義シラバス(5)

講義コード	※	専攻分野	内科学(リウマチ・膠原病・アレルギー内科)	
講義題目	リウマチ性疾患の新しい EBM- I		必修/選択	必修
担当教員	花岡 洋成	担当教員連絡先	西部病院 PHS:71477	
単位数	2 単位(前期 1・後期1)	履修年次	1 年	
テーマと目的	膠原病疾患の新しい EBM を理解する。			
講義計画	膠原病疾患の症例検討会に取り上げられた疾患に関する新しい診断治療に関する EBM がどのような研究手法で確立されたかを理解し、将来の研究に役立てる。			
達成目標	各種膠原病疾患の診断や治療に関する新しい EBM を学ぶ。 EBM がどのような研究手法で確立されたかを理解し、方法論を学ぶ。			
教科書・参考書	森實敏夫 臨床医のための EBM アップグレード			
準備学習(予習・復習・時間)	事前に参考資料を読むこと 1 時間			
成績評価法	出席と議論の場における発言内容と受講態度により総合評価する。			
講 義 内 容				
前期(回)	内 容 (出席◎)		後期(回)	内 容 (出席◎)
1	SLE の遺伝要因1		1	膠原病性肺高血圧症の診断法
2	SLE の遺伝要因2		2	ANCA 関連血管炎の診断と分類
3	強皮症の遺伝要因1		3	ループス腎炎の治療1
4	強皮症の遺伝要因2		4	ループス腎炎の治療 2
5	皮膚筋炎・多発性筋炎の遺伝要因		5	強皮症の治療法1
6	シェーグレン症候群の遺伝要因		6	強皮症の治療法2
7	ANCA 関連血管炎の遺伝要因		7	皮膚筋炎多発性筋炎の治療
8	SLE 発症の環境要因1		8	ANCA 関連血管炎の治療法1
9	SLE 発症の環境要因2		9	ANCA 関連血管炎の治療法2
10	強皮症発症の環境要因		10	間質性肺炎の治療法1
11	ANCA 関連血管炎発症の環境要因		11	間質性肺炎の治療法 2
12	ループス腎炎の診断法1		12	肺動脈性肺高血圧症の治療法1
13	ループス腎炎の診断法 2		13	肺動脈性肺高血圧症の治療法 2
14	膠原病性間質性肺炎の診断法		14	抗リン脂質抗体症候群の治療
15	評価日		15	評価日

講義担当者承認 (印)

学籍番号	
氏 名	

平成30年度講義シラバス(6)

講義コード	※	専攻分野	内科学(リウマチ・膠原病・アレルギー内科)		
講義題目	リウマチ性疾患の新しい EBM-Ⅱ		必修/選択	必修	
担当教員	大岡 正道	担当教員連絡先	内線 4285		
単位数	2 単位 (前期 1・後期1)	履修年次	2 年		
テーマと目的	リウマチ膠原病疾患の新しい EBM を理解する。				
講義計画	リウマチ膠原病疾患の症例検討会に取り上げられた疾患に関する新しい診断治療に関する EBM がどのような研究手法で確立されたかを理解し、将来の研究に役立てる。				
達成目標	各種リウマチ膠原病疾患の診断や治療に関する新しい EBM を学ぶ。 EBM がどのような研究手法で確立されたかを理解し、方法論を学ぶ。				
教科書・参考書	森實敏夫 臨床医のための EBM アップグレード				
準備学習(予習・復習・時間)	事前に参考資料を読むこと 1 時間				
成績評価法	出席と議論の場における発言内容と受講態度により総合評価する。				
講 義 内 容					
前期(回)	内 容 (出席㊟)		後期(回)	内 容 (出席㊟)	
1	RA の遺伝要因1		1	RA の治療1 (MTX)	
2	RA の遺伝要因2		2	RA の治療2 (MTX)	
3	RA と喫煙1		3	RA の治療3 (SASP)	
4	RA と喫煙2		4	RA の治療4 (GST)	
5	RA の早期診断1		5	RA の治療5 (FK)	
6	RA の早期診断2		6	RA の治療6 (LEF)	
7	RA の早期診断3		7	RA の治療7 (INF)	
8	RA の鑑別診断1		8	RA の治療8 (INF)	
9	RA の鑑別診断2		9	RA の治療9 (ETN)	
10	RA の鑑別診断3		10	RA の治療10 (ETN)	
11	RA の活動性評価法1		11	RA の治療11 (ADL)	
12	RA の活動性評価法2		12	RA の治療12 (TOC)	
13	RA の活動性評価法3		13	RA の治療13 (ABT)	
14	RA の活動性評価法4		14	RA の治療14 (Rif)	
15	評価日		15	評価日	

講義担当者承認

㊟

学籍番号	
氏 名	

平成30年度講義シラバス(7)

講義コード	※	専攻分野	内科学(リウマチ・膠原病・アレルギー内科)	
講義題目	リウマチ研究 UpDates-1		必修/選択	必修
担当教員	永渕 裕子	担当教員連絡先	内線 4285	
単位数	2 単位 (前期 1・後期1)	履修年次	1 年	
テーマと目的	リウマチ研究の最前線を理解する。			
講義計画	リウマチ性疾患に関する基礎的研究の動向とその方向性を学ぶ。			
達成目標	リウマチ性疾患の病因病態研究の最前線を理解する。 基礎的研究の仮説の設定、方法論、結果の解釈法を理解する。			
教科書・参考書	別途指示			
準備学習(予習・復習・時間)	事前に参考資料を読むこと 1 時間			
成績評価法	出席と議論の場における発言内容と受講態度により総合評価する。			
講 義 内 容				
前期(回)	内 容 (出席⑩)		後期(回)	内 容 (出席⑩)
1	ループス腎炎の病因1		1	強皮症の要因1
2	ループス腎炎の病因2		2	強皮症の要因2
3	ループス腎炎の組織1		3	強皮症の病態1
4	ループス腎炎の組織2		4	強皮症の病態2
5	ループス腎炎の組織3		5	強皮症の病態3
6	ループス腎炎の組織4		6	強皮症の病型1
7	ループス腎炎の組織5		7	強皮症の病型2
8	ループス腎炎の組織6		8	強皮症の腎病変1
9	ループス腎炎の治療研究1		9	強皮症の腎病変2
10	ループス腎炎の治療研究2		10	強皮症の肺病変1
11	ループス腎炎の治療研究3		11	強皮症の肺病変2
12	ループス腎炎の治療研究4		12	強皮症の肺高血圧症1
13	ループス腎炎の治療研究5		13	強皮症の肺高血圧症2
14	CNS ループス		14	強皮症の肺高血圧症3
15	評価日		15	評価日

講義担当者承認

⑩

学籍番号	
氏 名	

平成30年度講義シラバス(8)

講義コード	※	専攻分野	内科学(リウマチ・膠原病・アレルギー内科)	
講義題目	リウマチ研究 UpDates-2		必修/選択	必修
担当教員	鈴木 豪	担当教員連絡先	内線 4285	
単位数	2 単位(前期 1・後期1)	履修年次	2年	
テーマと目的	リウマチ研究の最前線を理解する。			
講義計画	リウマチ性疾患に関する基礎的研究の動向とその方向性を学ぶ。			
達成目標	リウマチ性疾患の病因病態研究の最前線を理解する。 基礎的研究の仮説の設定、方法論、結果の解釈法を理解する。			
教科書・参考書	別途指示			
準備学習(予習・復習・時間)	事前に参考資料を読むこと 1 時間			
成績評価法	出席と議論の場における発言内容と受講態度により総合評価する。			
講 義 内 容				
前期(回)	内 容 (出席◎)		後期(回)	内 容 (出席◎)
1	多発性筋炎の病態		1	ANCA の病態形成機序1
2	皮膚筋炎の病態		2	ANCA の病態形成機序2
3	PM/DM の治療研究1		3	ANCA 関連血管炎の病因1
4	PM/DM の治療研究2		4	ANCA 関連血管炎の病因2
5	PM/DM の間質性肺炎1		5	MPA の腎病変1, 2
6	PM/DM の間質性肺炎2		6	WG の腎病変1, 2
7	PM/DM の間質性肺炎3		7	MPA の肺病変1
8	PM/DM の悪性腫瘍		8	MPA の肺病変2
9	PM/DM の心筋病変		9	MPA の肺病変3
10	自己炎症性疾患1		10	MPA の肺病変4
11	自己炎症性疾患2		11	ANCA 関連血管炎の治療1
12	自己炎症性疾患3		12	ANCA 関連血管炎の治療2
13	血球貪食症候群1		13	ANCA 関連血管炎の治療3
14	血球貪食症候群2		14	ANCA 関連血管炎の治療4
15	評価日		15	評価日

講義担当者承認 ◎

学籍番号	
氏 名	

平成30年度講義シラバス(9)

講義コード	※	専攻分野	内科学(リウマチ・膠原病・アレルギー内科)	
講義題目	臨床免疫学Ⅰ		必修/選択	必修
担当教員	永渕 裕子	担当教員連絡先	内線 4285	
単位数	2 単位(前期 1・後期1)	履修年次	1 年	
テーマと目的	臨床免疫学の基礎を理解する。			
講義計画	基礎及び臨床免疫学の基本的知識を学習する。			
達成目標	臨床免疫学の基本を理解する。			
教科書・参考書	1. Robbins and Cotran Pathologic Basis of Disease 7 th Edition 2. Kelly’s Textbook of Rheumatology 8 th Edition			
準備学習(予習・復習・時間)	事前に参考資料を読むこと 1 時間			
成績評価法	出席と議論の場における発言内容と受講態度により総合評価する。			
講 義 内 容				
前期(回)	内 容 (出席Ⓢ)		後期(回)	内 容 (出席Ⓢ)
1	General Feature of Immune System		1	Neutrophils
2	Innate Immunity		2	Eosinophils
3	Adaptive Immunity		3	Mast cells
4	T lymphocyte		4	Prostaglandins, Leukotrienes and Related Compounds
5	B lymphocyte		5	Fibroblast Function and Fibrosis
6	復習と討論		6	復習と討論
7	Complement		7	Structure and Function of Histocompatibility Molecules
8	Platelets		8	復習と討論
9	Macrophage		9	Immediate Hypersensitivity (TypeⅠ)
10	Dendritic cells		10	Systemic Anaphylaxis & Local Hypersensitivity
11	Natural Killer cells		11	復習と討論
12	復習と討論		12	Antibody-Mediated(TypeⅡ)Hypersensitivity
13	Cytokines 1		13	Immune Complex-mediated (TypeⅢ) Hypersensitivity
14	Cytokines 2		14	Cell-Mediated (TypeⅣ) Hypersensitivity
15	復習と討論		15	復習と討論

*「復習と討論」では前項までの中で最新の知見又は論文を提示し、問題点を躍起する場とする。

講義担当者承認

Ⓢ

学籍番号	
氏 名	

平成30年度講義シラバス(10)

講義コード	※	専攻分野	内科学(リウマチ・膠原病・アレルギー内科)	
講義題目	臨床免疫学 II		必修/選択	必修
担当教員	大岡 正道	担当教員連絡先	内線 4285	
単位数	2 単位 (前期 1・後期1)	履修年次	2年	
テーマと目的	臨床免疫学の基礎を理解する。			
講義計画	基礎及び臨床免疫学の基本的知識を学習する。			
達成目標	臨床免疫学の基本を理解する。			
教科書・参考書	1. Robbins and Cotran Pathologic Basis of Disease 7 th Edition 2. Kelly's Textbook of Rheumatology 8 th Edition			
準備学習(予習・復習・時間)	事前に参考資料を読むこと 1 時間			
成績評価法	出席と議論の場における発言内容と受講態度により総合評価する。			
講 義 内 容				
前期(回)	内 容 (出席◎)		後期(回)	内 容 (出席◎)
1	Transplant rejection		1	Vasculitides 1
2	Autoimmune Disease		2	Vasculitides 2
3	Immunologic Tolerance		3	Amyloidosis
4	Antinuclear Antibodies		4	Sarcoidosis
5	Systemic Lupus Erythematosus		5	復習と討論
6	復習と討論		6	Primary Immunodeficiencies
7	Biology of Normal Joint		7	Acquired Immunodeficiency Syndrome 1
8	Proteoglycans and Cartilage		8	Acquired Immunodeficiency Syndrome 2
9	Rheumatoid Factor		9	復習と討論
10	Rheumatoid Arthritis		10	Corticosteroid
11	復習と討論		11	Nonsteroidal Antiinflammatory Drug
12	Sjögren Syndrome		12	Methotrexate
13	Systemic Sclerosis		13	Immunoregulatory Drugs
14	Inflammatory Myopathy		14	Biologic Agents for Treatment of Rheumatoid Arthritis
15	復習と討論		15	復習と討論

*「復習と討論」では前項までの中で最新の知見又は論文を提示し、問題点を躍起する場とする。

講義担当者承認 (印)

学籍番号	
氏 名	

平成30年度講義シラバス(11)

講義コード		専攻分野	内科学(リウマチ・膠原病・アレルギー内科)		
講義題目	分子生物学概論 実習 (I)		必修/選択	必修	
担当教員	鈴木 真奈絵	担当教員連絡先	内線 3522		
単位数	1単位(前期・後期)	履修年次	1年		
テーマと目的	分子生物学の基本的技術、遺伝子組換え技術を実習する。				
講義計画	核酸の定量、標識、抽出、cDNA 作製、遺伝子のスクリーニングとクローニング、遺伝子の増幅と塩基配列血清、蛋白質解析などを実際に行う				
達成目標	1.DNA を取り扱う分子生物学的方法とその原理を理解し、説明できる。 2.特定遺伝子 (DNA) を抽出・増幅法とその原理を理解し説明できる。				
教科書・参考書	1.細胞の分子生物学(Bruce Alberts (著), 中村 桂子 (翻訳), 松原 謙一 (翻訳)、ニュートンプレス、第 4 版、2004) 2.バイオ実験イラストレイテッド〈1〉分子生物学実験の基礎 (中山 広樹 (著), 西方敬人 (著)、秀潤社、1995)				
準備学習(予習・復習・時間)	事前に参考資料を読むこと 1 時間				
成績評価法	出席と講義内での発表また受講態度による総合評価。				
講 義 内 容					
前期(回)	内 容 (出席◎)		後期(回)	内 容 (出席◎)	
1	DNA抽出の実際(1)		1	プライマーの設計の実際(1)	
2	DNA抽出の実際(2)		2	プライマーの設計の実際(2)	
3	RNA抽出の実際(1)		3	塩基配列決定の実際(1)	
4	RNA抽出の実際(2)		4	塩基配列決定の実際(2)	
5	DNAの定量法の実際(1)		5	ベクターの作成の実際(1)	
6	DNAの定量法の実際(2)		6	ベクターの作成の実際(2)	
7	RNAの定量法の実際(1)		7	ベクターの作成の実際(3)	
8	RNAの定量法の実際(2)		8	大腸菌による蛋白質産生の実際(1)	
9	cDNA の作成の実際(1)		9	大腸菌による蛋白質産生の実際(2)	
10	cDNA の作成の実際(2)		10	大腸菌による蛋白質産生の実際(3)	
11	cDNA の作成の実際(3)		11	無生物系蛋白質産生の実際(1)	
12	DNAプローブの作成法(1)		12	無生物系蛋白質産生の実際(2)	
13	DNAプローブの作成法(2)		13	総合討論と発表(1)	
14	PCRの実際(1)		14	総合討論と発表(2)	
15	PCRの実際(2)		15	総合討論と発表(3)	

講義担当者承認 ◎

学籍番号	
氏 名	

平成30年度講義シラバス(12)

講義コード	※	専攻分野	内科学(リウマチ・膠原病・アレルギー内科)	
講義題目	リウマチ性疾患の新しい病態-I		必修/選択	選択
担当教員	川畑 仁人	担当教員連絡先	内線 4119	
単位数	2 単位(前期 1、後期1)	履修年次	1 年	
テーマと目的	新たに提唱・発見された病態に関する新知見を学ぶ			
講義計画	最新論文の成績を吟味、評価し、免疫疾患の病態の理解を深める。			
達成目標	研究の背景、仮説、方法論、結果のまとめ方、結果の評価方法を理解する。 得られた知見を臨床に応用する方法を理解する。			
教科書・参考書	最新論文			
準備学習(予習・復習・時間)	事前に参考資料を読むこと 1 時間			
成績評価法	出席と議論の場における発言内容と受講態度により総合評価する。			
講 義 内 容				
前期(回)	内 容 (出席◎)		後期(回)	内 容 (出席◎)
1	Autoinflammatory syndrome 1		1	Thrombotic microangiopathy 1
2	Autoinflammatory syndrome 2		2	Thrombotic microangiopathy 2
3	Autoinflammatory syndrome 3		3	Thrombotic microangiopathy 3
4	Autoinflammatory syndrome 4		4	Thrombotic microangiopathy 4
5	Autoinflammatory syndrome 5		5	Thrombotic microangiopathy 5
6	Autoinflammatory syndrome 6		6	Thrombotic microangiopathy 6
7	Autoinflammatory syndrome 7		7	Thrombotic microangiopathy 7
8	Autoinflammatory syndrome 8		8	血球貪食症候群1
9	Autoinflammatory syndrome 9		9	血球貪食症候群 2
10	Autoinflammatory syndrome 10		10	血球貪食症候群 3
11	Autoinflammatory syndrome 11		11	血球貪食症候群 4
12	Autoinflammatory syndrome 12		12	血球貪食症候群 5
13	Autoinflammatory syndrome 13		13	血球貪食症候群 6
14	Autoinflammatory syndrome 14		14	血球貪食症候群 7
15	評価日		15	評価日

講義担当者承認 ◎

学籍番号	
氏 名	

平成30年度講義シラバス(13)

講義コード	※	専攻分野	内科学(リウマチ・膠原病・アレルギー内科)	
講義題目	リウマチ性疾患の新しい病態－II		必修/選択	選択
担当教員	鈴木 豪	担当教員連絡先	内線 4288	
単位数	2 単位(前期 1、後期1)	履修年次	2 年	
テーマと目的	新たに提唱・発見された病態に関する新知見を学ぶ			
講義計画	最新論文の成績を吟味、評価し、免疫疾患の病態の理解を深める。			
達成目標	研究の背景、仮説、方法論、結果のまとめ方、結果の評価方法を理解する。 得られた知見を臨床に応用する方法を理解する。			
教科書・参考書	最新論文			
準備学習(予習・復習・時間)	事前に参考資料を読むこと 1 時間			
成績評価法	出席と議論の場における発言内容と受講態度により総合評価する。			
講 義 内 容				
前期(回)	内 容 (出席◎)		後期(回)	内 容 (出席◎)
1	Fasciitis-panniculitis syndrome 1		1	Inflammasome 1
2	Fasciitis-panniculitis syndrome 2		2	Inflammasome 2
3	Fasciitis-panniculitis syndrome 3		3	Inflammasome 3
4	Fasciitis-panniculitis syndrome 4		4	Inflammasome 4
5	Fasciitis-panniculitis syndrome 5		5	Inflammasome 5
6	Fasciitis-panniculitis syndrome 6		6	Macrophage activating syndrome 1
7	Fasciitis-panniculitis syndrome 7		7	Macrophage activating syndrome 2
8	ANCA 関連間質性肺炎 1		8	Macrophage activating syndrome 3
9	ANCA 関連間質性肺炎 2		9	Macrophage activating syndrome 4
10	ANCA 関連間質性肺炎 3		10	Macrophage activating syndrome 5
11	ANCA 関連間質性肺炎 4		11	強皮症の病態解明 新展開1
12	ANCA 関連間質性肺炎 5		12	強皮症の病態解明 新展開 2
13	ANCA 関連間質性肺炎 6		13	強皮症の病態解明 新展開 3
14	ANCA 関連間質性肺炎 7		14	強皮症の病態解明 新展開 4
15	評価日		15	評価日

講義担当者承認 (印)

学籍番号	
氏 名	

平成30年度講義シラバス(14)

講義コード	※	専攻分野	内科学(リウマチ・膠原病・アレルギー内科)	
講義題目	リウマチ性疾患の新しい病態－III		必修/選択	選択
担当教員	永渕 裕子	担当教員連絡先	多摩病院 8088	
単位数	1単位(前期 1)	履修年次	2 年	
テーマと目的	新たに提唱・発見された病態に関する新知見を学ぶ			
講義計画	最新論文の成績を吟味、評価し、免疫疾患の病態の理解を深める。			
達成目標	研究の背景、仮説、方法論、結果のまとめ方、結果の評価方法を理解する。 得られた知見を臨床に応用する方法を理解する。			
教科書・参考書	最新論文			
準備学習(予習・復習・時間)	事前に参考資料を読むこと 1 時間			
成績評価法	出席と議論の場における発言内容と受講態度により総合評価する。			
講 義 内 容				
前期(回)	内 容 (出席◎)		後期(回)	内 容 (出席◎)
1	Hypersensitivity syndrome 1		1	
2	Hypersensitivity syndrome 2		2	
3	Hypersensitivity syndrome 3		3	
4	Hypersensitivity syndrome 4		4	
5	Hypersensitivity syndrome 5		5	
6	Hypersensitivity syndrome 6		6	
7	Hypersensitivity syndrome 7		7	
8	IgG4 syndrome 1		8	
9	IgG4 syndrome 2		9	
10	IgG4 syndrome 3		10	
11	IgG4 syndrome 4		11	
12	IgG4 syndrome 5		12	
13	IgG4 syndrome 6		13	
14	IgG4 syndrome 7		14	
15	評価日		15	

講義担当者承認

◎